

函館厚生院看護専門学校 学校関係者評価委員会報告

< 2024年度学校関係者評価委員会の開催 >

日 時：2025年3月21日（金） 14：00～15：30

出席者：学校関係者評価委員 4 名

（卒業生、地元企業関係者、高等学校関係者、その他教育に関する有識者）

欠席者：2 名（地域住民、その他教育に関する有識者）

学校側出席者：副学校長、教務課長

議 題：

1. 「2024 年度自己点検・自己評価」 評価結果
2. 「2024 年度自己点検・自己評価」 集計表
3. 「2024 年度自己点検・自己評価」 結果による抽出課題と取組み
4. 「2024 年度自己点検・自己評価」 実施後の評価結果の分析および課題

I. 教育理念・教育目的：大項目 3.60、+0.03（肯定的評価）

・教育理念・教育目的の理解はそれぞれの教育活動を通じて深まった。今後も会議等で情報共有継続、教員の理解を深め、教育活動の基盤として教育理念・教育目標を意識づけられるように周知していく必要がある。

II. 教育目標：大項目 3.77、+0.35（肯定的評価）

・新カリキュラム完成年度で3年間の全体像が見えてきた。会議や日々の教育活動の中で理解が深まった。

III. 教育課程経営：大項目 3.32、+0.02（肯定的評価）

・各教員が統一して教育実践を行うためには、本校の教育課程と授業実践、教育評価と

の関連性を理解し教育理念・教育目的の達成を意識する必要があるが、新カリキュラム完成年度で、全体像が見えてきたのが評価につながった。

・学生の個別対応、家庭の連絡が増加している中で、基本的な業務遂行に時間を要している。専任教員の自己・相互研鑽システムは、新型コロナが5類になり、学会出張、オンライン受講も勧めているが、余裕がなく、授業準備・研修受講の時間確保が難しい、授業準備に時間を要することが課題にあげられる。ワークライフバランスを保つためにも、業務全体の見直し、スリム化、キャリアラダーの活用が必要である。

IV. 授業・学習（講義・演習・実習）・評価課程：大項目平均 3.37、▲0.03（肯定的評価）

・社会人基礎力がまだ不十分な学生のレベルを引き上げるための教育方法は工夫を要し、学生の反応をとらえながら実践している段階。学習成果を評価し授業の展開の在り方で改善すべき点がないか検討する。

・領域別実習全てが新カリキュラムの運用となり変化が大きい1年だった。「在宅看護論」は「地域・在宅看護論」へ名称変更、講義時間数1.5倍、実習場所は訪問看護ステーションに加え包括支援センターも入れた。評価表は全てルーブリックへ変更。今後も学生による授業評価、自己点検自己評価等、多様な視点から教育目標の達成状況を踏まえ、教育の質を保つことができるよう見直し、修正する。

V. 経営・管理過程：大項目 3.38、▲0.04（肯定的評価）

・授業（演習・実習）対応強化のため iPad、連絡連携強化のため iPhone を導入、ライノワークス活用。

・「学生生活の支援」について、学生の支援体制として、奨学金制度（経済的支援）、スクールカウンセラーの支援（月2回）、担任・副担任制度等があり、教職員も再認識する必要がある。

・「養成所に関する情報提供」について情報提供・PR の実際について教職員全体で共通

認識を高める必要がある。

- ・事業計画に中期目標と単年度目標（重点目標）を明示、実施・評価している。今後市内で看護系大学設置計画があることから、学校運営方針を確認し、学生確保・運営計画及び将来構想を検討する必要がある。

VI. 入学：大項目 3.63、+0.03（肯定的評価）

- ・オープンキャンパス・ホームページのPR・学校案内パンフレット配布、高校訪問の実施、高校進路相談会・講演会、指定校推薦見直し等、優秀な学生の確保に力を注ぐことが教職員へ浸透し反映している。職員会議で意見交換が活発にでき、オープンキャンパスの内容に反映できたことも影響している。抽出課題として、当校だけではなく、社会状況から優秀な学生の確保が困難になってくると考えられ、広報活動の対象や内容、魅力ある学校への検討が必要。

VII. 卒業・就業・進学：大項目 3.05、+0.09（肯定的評価へ転じた）

- ・卒業時に調査及び学生アンケートを実施しており、その結果を教員へのフィードバックしていることが結果に反映していると考ええる。同法人病院への就職者が平均 8 割～9 割以上であり、卒業生の活躍の状況・評価を得るため、今後も看護部と情報交換が必要。
- ・新カリキュラムの学生が卒業、今後はカリキュラム評価の段階となる。
- ・卒業生の個別来校に教員が相談対応しているが、例えば、6・7 月頃にホームカミングディ等を企画し、半日程度職員等と話すことで、離職やメンタル不調の対応につながると期待、今後検討する。

VIII. 地域社会・国際交流：3.05、増減なし（肯定的評価）

- ・新カリキュラムで講義「地域・在宅看護論」、「多職種連携活動論」を展開、今年度より地域包括支援センター実習が展開され、地域の実情・課題を学ぶ機会になった。また、「学生交流の日」を函館アリーナで開催、地域イベント「函館マラソン」等学生ボラン

ティア希望者の活動を教員がサポートした。

- ・「国際交流」について、厚生院介護施設の技能実習生（インドネシアで看護大学を卒業した研修生）と３年生、教職員との技能実習生交流会が定着、国際的視野を広げること
に期待。外国人入学希望者の受け入れは今後の課題。

IX. 研究：3.10, +0.6（肯定的評価へ転じた）

- ・８月に開催した北海道教育施設協議会渡島檜山地区、看護継続研修会に教員全員で参加、各自の専門領域で意見交換や他校の状況を学ぶことができた。

- ・研修会参加は、年１回出張を保障、参加予定・検討中の教員もあり、研修参加のための業務調整が行いやすい職場風土作りに取り組んでいる。研究的視点で取り組む教員が増えてきている。

- ・研究の項目が肯定的評価へ変化したことは良かった。

以上